

北里大学：田口明子

学修等に関するアンケート結果を見て思うこと

「北里大学における学修等に関するアンケート」は学生の学修習慣、学修方法、授業への満足度、能力の自己評価等の変遷を経時的に調査することにより、本学における教育課題・学習課題を多岐にわたって抽出し、将来の教育改革に繋げることを目的として平成20年から実施されている。アンケートの筆頭に設定されている大学進学理由、本学への進学理由は調査開始から「希望する職種に就けるから」が約半数を占め、医療系学部が多い当大学の特殊性を如実に示している。学問を追究するという大学本来の目的(異論はあろうが)は調査項目にすら入っていない所を見ると、調査側の大学と言う教育機関に対する意識が既に変化しているように感じられる。(アンケートの集計はHP 高等教育開発センターのバナーから閲覧可能)

調査の目的や結果はさておき、個人的に面白いのは付随している自由記載の内容で(非公開)、調査開始以来回答内容に大きな変化はないものの、無記名記載のためその年々の学生の本音を読み取ることができる。”後期テストの始まりが早すぎる(1月4日～)“、“記入・集計の努力を考えたら、web アンケートにすべき“などのようなもつともだと思いう意見がある一方、”1限が多すぎて睡眠不足、1限の講義は止めて欲しい“と言った学生としての自覚を問いたいような記載が多数ある。1限だけが多いのではなく、殆どの曜日で1限から5限まで空きなく必修講義が組まれているのが現状であるだけに、学生さんも大変だとは思いますが。また、”1年時の教養科目が不要“と言う意見がどの学部からも上がっている。大学としての *raison d'être* が試されているようである。”試験問題は毎年作り直して欲しい“、“講義の準備はしっかりとしておいて欲しい“ 教員としてはドキッとさせられるような講義内容・方法に対する指摘等有意義な記載も多いが、”落とさないで“に表れるような学生側の努力で解消できるであろうと思われる不平不満がより多いのが気になるところである。